

交換用バッテリーパック

BNB300T/BNB75T取扱説明書

本製品は、BN75T/BN50T 用(BNB75T)、
BN300T/BN220T/BN150T/BN100T 用(BNB300T)の交換用バッテリーパック(以降バッテリーと呼ぶ)です。

目次

安全上のご注意 1

付属品を確認する 4

バッテリーの交換方法 4

 BN300T/BN220Tの場合 5

 BN150T/BN100Tの場合 10

 BN75T/BN50Tの場合 13

安全上のご注意

安全上のご注意

安全に使用していただくために重要なことがらが書かれています。設置やご使用開始の前に必ずお読みください。

- この取扱説明書の安全についての記号と意味は以下の通りです。

	警告	正しい取り扱いをしなければ、軽傷・中程度の傷害を負ったり、万が一の場合は重傷や死亡に至る恐れがあります。また、同様に重大な物的損害を受ける恐れがあります。
	注意	正しい取り扱いをしなければ、軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害を受ける恐れがあります。

※ 物的損害とは、家屋・家財および家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

: 禁止(してはいけないこと)を示します。たとえば は分解禁止を意味しています。

: 強制(必ずしなければいけないこと)を示します。たとえば はアースの接続が必要であることを意味します。

なお、注意に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性もあります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

警告

梱包のポリ袋やフィルム類は、幼児の手の届かない場所に保管する。

- 小さいお子様がかぶつたりのみ込んだりすると、呼吸を妨げる危険性があります。



バッテリーの分解、改造をしない。

- 液体（電解液）が漏れ、触れると失明、やけどなどの恐れがあります。



バッテリーを落下させたり、強い衝撃をあてたりしない。

- バッテリーが発熱、発煙、破裂、発火する恐れがあります。
- 液体（電解液）が漏れ、触れると失明、やけどなどの恐れがあります。
- 落下に巻き込まれるとけがをする恐れがあります。



バッテリーを火の中に投棄したり、破壊したりしない。

- バッテリーが破裂、爆発したり、液体（電解液）が漏れたりすることがあります。また、火災の恐れがあります。



交換作業は安定した平らな場所で行う。

- バッテリーは落下しないよう、両手でしっかりと保持してください。落下によるけが、バッテリーからの液漏れによる失明や、やけどなどの恐れがあります。
- バッテリーコネクタを差し込んだときに、「パチッ」と音が聞こえることがありますが、問題ありません。



バッテリーは必ず指定品を使用する。

- 指定以外のバッテリーを使用した場合、UPS 本体の故障、発煙、発火、火災の恐れがあります。不適切な種類のバッテリーに交換した場合は、爆発の恐れがあります。
- 同じ種類、同じ数のバッテリーに交換してください。バッテリーについては、UPS 本体の取扱説明書を参照してください。



可燃性ガスがある場所でバッテリーを交換しない。

- バッテリーを接続する際、火花が飛び、爆発、火災の恐れがあります。



バッテリーから液漏れがあるときは液体（電解液）に触れない。またバッテリーを逆さまにしない。

- 失明や、やけどをする恐れがあります。
- 液体（電解液）が、目や皮膚に付着したときは、すぐに大量のきれいな水で洗い流し、医師の診断（診療）を受けてください。
- 交換用バッテリーパックを包装してあるビニール袋にそのまま入れ、テープで封止してください。



バッテリー接続コネクタやバッテリー収納部に金属物を挿入しない。バッテリーやコネクタの端子間をショートさせない。

- 感電や発煙、発火、やけどの恐れがあります。
- 使用済みのバッテリーでも、内部に電気エネルギーが残っています。



警告

バッテリーを取り外すときに、ケーブルやコネクタを持って引っ張らない。

- ケーブルの損傷により、感電や発煙、発火の恐れがあります。



バッテリー交換の際は、以下の注意事項を遵守する。

遵守しない場合、UL 規格に適合しません。

- 感電、ショート of の恐れがあります。
 - ・ 時計、指輪などの貴金属類は着用しないでください。
 - ・ グリップ部分が絶縁されたドライバを使用してください。
 - ・ 絶縁性の手袋と靴を着用してください。
 - ・ バッテリーの上には工具や金属類を置かないでください。
 - ・ バッテリーを接地しないでください。また、接地状態のバッテリーには触らないでください。
 - ・ 本体内部に手を入れないでください。
- バッテリー交換はバッテリーの危険性や注意すべきことを理解している人に依頼する、またはその人の監督の下で行ってください。



注意

新しいバッテリーと古いバッテリーを同時に使用しない。

- バッテリーが早く劣化し、液漏れする恐れがあります。



UPS 本体を UL 規格適合品として使用する場合、バッテリー交換作業は、接続機器の AC 入力プラグを抜いた状態で UPS 本体の電源を切り、商用電源の供給を止めてからう。

- 運転状態でのバッテリー交換機能は、UL 規格に適合していません。
- 交換作業中は、接続機器への給電はできません。バックアップ運転中にバッテリー交換をしないでください。また、運転状態でのバッテリー交換中に停電などの入力電源異常が発生した場合、出力は停止します。
- 商用電源の供給停止については UPS 本体の取扱説明書を参照してください。



◆お願い◆

購入後は早めに充電してください。ご購入後長時間充電しないと、バッテリーが劣化し、使用できなくなることがあります。

● 充電時間については、UPS 本体の取扱説明書を参照してください。

頻繁にバックアップ運転をする用途に使用しないでください。

● バッテリーの劣化が早まり、寿命が著しく短くなる場合があります。

この製品には、鉛バッテリー（鉛蓄電池）を使用しています。

● 鉛バッテリーはリサイクル可能な貴重な資源です。鉛バッテリーの交換および使用済み製品の廃棄に際しては、リサイクルへご協力ください。

リサイクルについては、UPS 本体の取扱説明書（最終ページ）の「お問い合わせ窓口」までご連絡いただくか、当社ホームページより、リプレイスサービス引取申込書をダウンロードして、必要事項をご記入のうえ、当社までご送付ください。

その際に、ショート危険がありますので、端子部をテープ等で絶縁してください。



バッテリー交換後は、必ずバッテリー寿命カウンタのリセットを行ってください。

● もしバッテリー寿命カウンタのリセットを行わなかった場合、バッテリーの期待寿命より早くバッテリー劣化アラームが発生してしまう恐れがあります。

バッテリーを UPS 本体に入れて保管される場合はバッテリーを完全に充電し、電源を切ってください。また、以下の通り定期的に再充電してください。

バッテリーは使用しない場合でも自己放電し、長期間放置すると過放電状態となります。バックアップ時間が短くなったり、使用できなくなることがあります。

● 充電時間については UPS 本体の取扱説明書を参照してください。

● 再充電の目安

- ・ 保管温度 25°C以下：6 か月以内
- ・ 保管温度 40°C以下：2 か月以内

● 長期間保管される場合は 25°C以下の環境を推奨します。

● 保管中は UPS 本体の「電源」スイッチを切ってください。

付属品を確認する

付属品がすべて揃っているか、外観に損傷はないか確認してください。

万一、不良品その他お気づきの点がございましたら、すぐに販売店へご連絡ください。

- 取扱説明書(本書) 和文 1 冊、英文 1 冊
- 板金カバー固定ねじ(予備) 2 本
- バッテリー交換日ラベル 1 枚
- リプレイスサービス引取申込書 1 枚

バッテリーの交換方法


UPS 本体が運転停止（電源出力停止）、運転中（電源出力中）のどちらの状態でも、バッテリーの交換ができます。

参考

「バッテリー交換」LEDが点灯／点滅表示されて、ブザーが鳴動している場合は、ESCを1秒以上押すことで、ブザー音を一時停止させることができます。（このとき「バッテリー交換」LEDの点灯／点滅は消えません。）

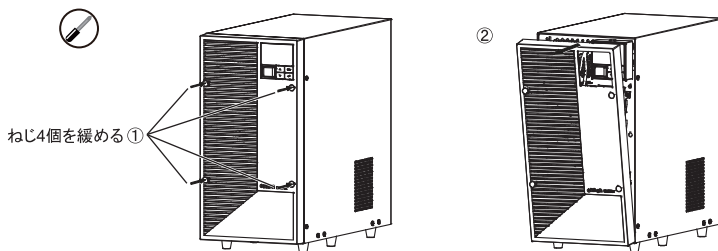
まずはバッテリーを用意してください。バッテリーはテープおよびフィルムにより固定されているため、剥がさないでください。

次にバッテリーを交換します。

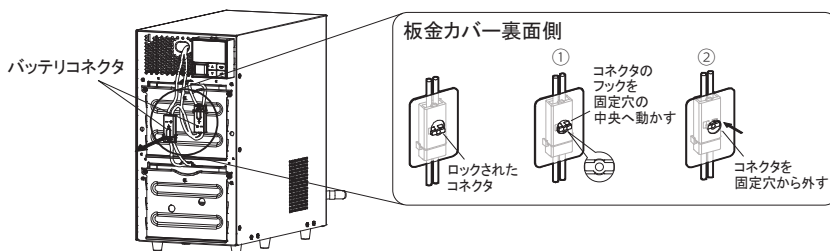
 ねじを回すためにドライバが必要であることを示します。
ねじの形状に合ったドライバをご用意ください。

BN300T/BN220Tの場合

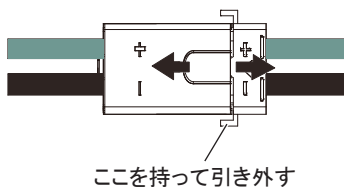
1. フロントパネル中央部左右のねじ（4個）を緩め（①）、フロントパネルを手前に引いて取り外します（②）。
ねじが空回りするまで緩めてください。



2. バッテリーコネクタ（2個）を板金カバーから外します。
バッテリーコネクタは板金カバーの固定穴にロックされています。コネクタを持ち上げてフックを固定穴の中央まで移動させ（①）、コネクタを後ろに引いて固定穴から取り外します（②）。

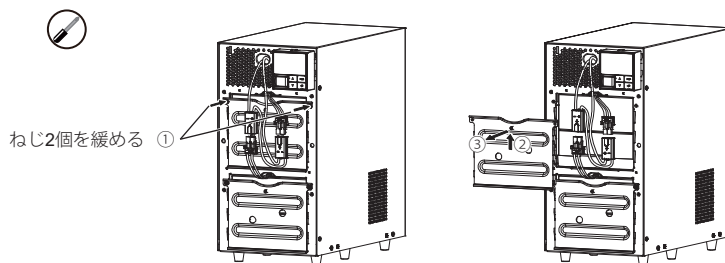


3. バッテリーコネクタを引き外します。

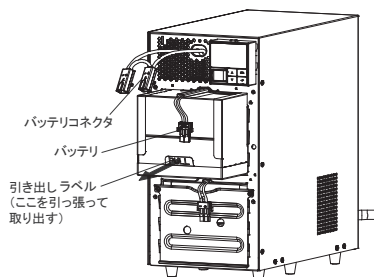


取扱説明書

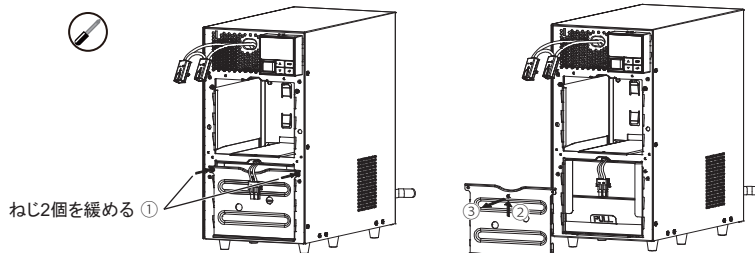
4. 上段バッテリーの板金カバーを固定しているねじ（2個）を外します（①）。
板金カバーを上を持ち上げながら（②）、手前に引き外します（③）。



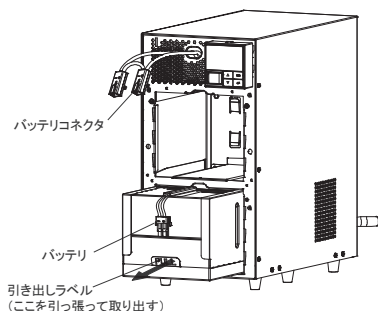
5. 上段バッテリー下部の引き出しラベルを持ち、手前に引っ張って取り出します。
バッテリーのケーブルやコネクタを持たないでください。
バッテリー天面に貼ってある赤いテープが見えたら、あと 10cm でバッテリーが完全に取り出せます。バッテリーを両手でしっかりと持ち、落とさないよう注意してください。



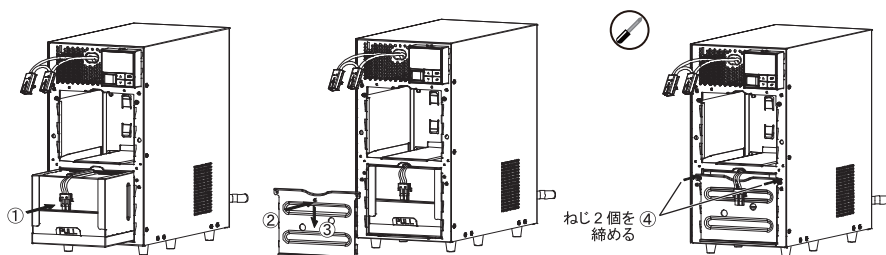
6. バッテリーコネクタ（2個）を板金カバーから外します。
バッテリーコネクタは板金カバーの固定穴にロックされています。コネクタを持ち上げてフックを固定穴の中央まで移動させ（①）、コネクタを後ろに引いて固定穴から取り外します（②）。



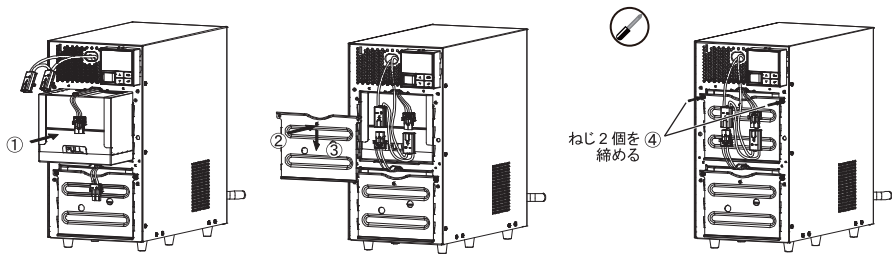
7. 下段バッテリー下部の引き出しラベルを持ち、手前に引っ張って取り出します。
 バッテリーのケーブルやコネクタを持たないでください。
 バッテリー天面に貼ってある赤いテープが見えたら、あと 10cm でバッテリーが完全に取り出せます。
 バッテリーを両手でしっかりと持ち、落とさないよう注意してください。



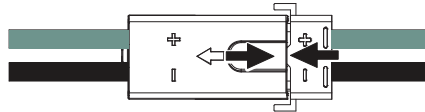
8. 下段に新しいバッテリーを挿入し、UPS 本体の奥まで収納します (①)。
 板金カバーを UPS 本体に向かって押さえ (②)、下にスライドさせて取り付けます (③)。
 手順 6 で外したねじ (2 個) を取り付け、板金カバーを固定します (④)。
 板金カバーでケーブルを挟まないように注意してください。



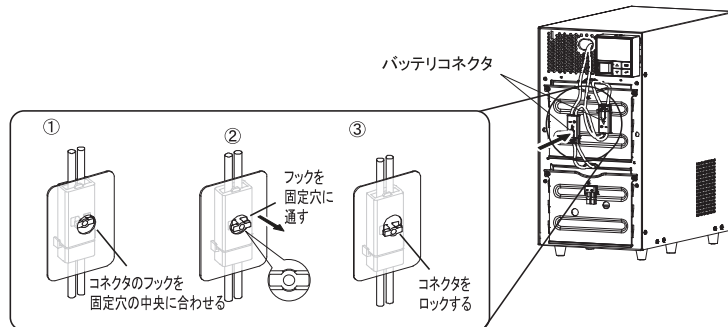
- 9.** 上段に新しいバッテリーを挿入し、UPS 本体の奥まで収納します (①)。
 板金カバーを UPS 本体に向かって押さえ (②)、下にスライドさせて取り付けます (③)。
 手順 4 で外したねじ (2 個) を取り付け、板金カバーを固定します (④)。
 板金カバーでケーブルを挟まないように注意してください。



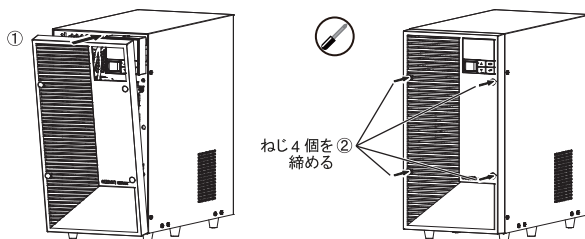
- 10.** バッテリコネクタを接続します。
 バッテリコネクタを止まるまで差し込んでください。
 運転停止 (電源出力停止) 状態で交換作業を行っている場合、コネクタ接続時にパチッと音がすることがありますが、異常ではありません。



- 11.** バッテリコネクタ (2 個) を板金カバーに取り付けます。
 バッテリコネクタのフックを板金カバーの固定穴の中央に合わせ (①)、フックを固定穴に通し (②)、コネクタを下げて固定穴にロックします (③)。



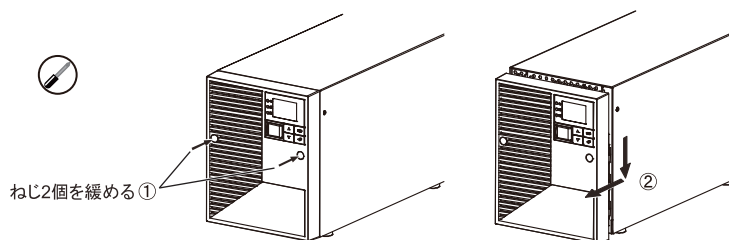
12. フロントパネルを UPS 本体に取り付け (①)、フロントパネル中央部左右のねじ (4 個) を締めます (②)。



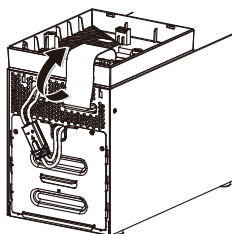
13. 交換作業が終わったら、自己診断テストを実施します。
テストが終了すると、自動的に運転状態に戻ります。
- 運転停止 (電源出力停止) 状態でバッテリー交換を行った場合
商用電源に接続し、UPS 本体の電源を入れてください。自動で自己診断テストが実施されます。
 - 運転中 (電源出力中) にバッテリー交換を行った場合
LCD メニューの [2.コントロール]—[ジコンダンテストカインシ] で、手動で自己診断テストを実施してください。
14. カレンダーの設定をします。
商用電源の供給を止めてバッテリー交換を行った場合は、内蔵時計が未設定となります。LCD メニューの [3.セッテイ]—[ローカルセッテイ]—[カレンダーセッテイ] で内蔵時計の年月日、時刻を設定してください。
15. バッテリー寿命カウンタをリセットします。
LCD メニューの [2.コントロール]—[バッテリージュモウカウンタリセット] で、バッテリー寿命カウンタをリセットできます。
16. バッテリー交換日を記録します。
バッテリー交換日は、付属のバッテリー交換日ラベルに記入し、UPS 本体に貼り付けてください。
LCD メニューの [3.セッテイ]—[バッテリーセッテイ]—[バッテリーコウカンビ] で、バッテリー交換日を入力して管理することもできます。

BN150T/BN100Tの場合

1. フロントパネル中央部左右のねじ（2個）を緩め（①）、フロントパネルを下げ
手前に取り外します（②）。
ねじが空回りするまで緩めてください。
ねじはフロントパネルから外れない構造になっています。



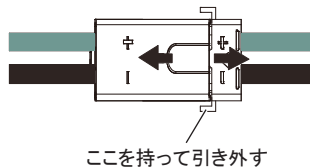
取り外したフロントパネルはUPS本体上部に置きます（③）。このとき、LCDのケーブルを引っ張ったりコネクタを外したりしないでください。



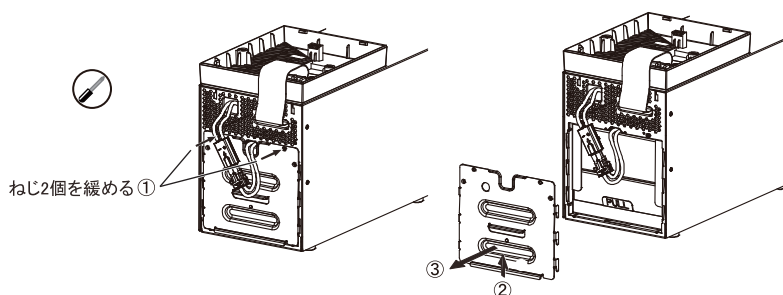
2. バッテリーコネクタを板金カバーから外します。
バッテリーコネクタは板金カバーの固定穴にロックされています（①）。コネクタを持ち上げてフックを固定穴の中央まで移動させ（②）、コネクタを後ろに引いて固定穴から取り外します（③）。



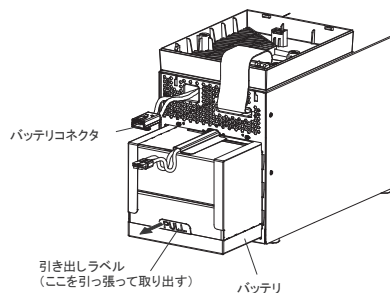
3. バッテリーコネクタを引き外します。



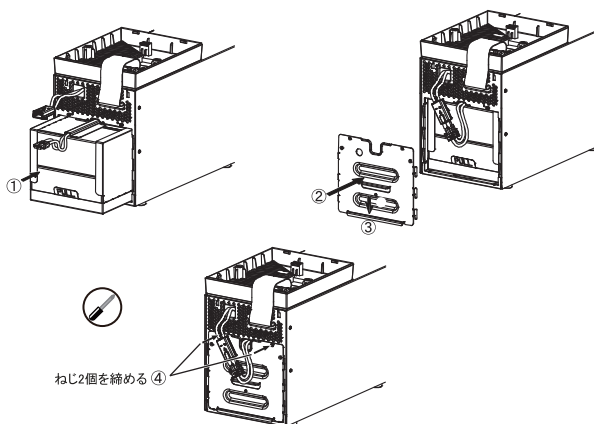
4. 板金カバーを固定しているねじ (2 個) を外します (①)。
板金カバーを上を持ち上げながら (②)、手前に引き外します (③)。



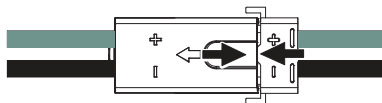
5. 上段バッテリー下部の引き出しラベルを持ち、手前に引っ張って取り出します。
バッテリーのケーブルやコネクタを持たないでください。
バッテリー天面に貼ってある赤いテープが見えたら、あと 10cm でバッテリーが完全に取り出せます。バッテリーを両手でしっかりと持ち、落とさないよう注意してください。



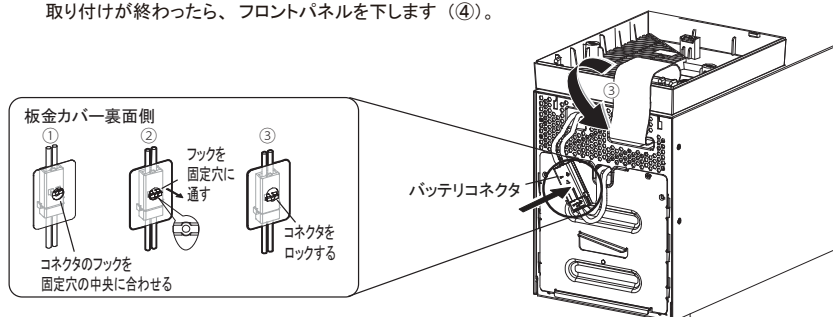
- 6 新しいバッテリーを挿入し、UPS 本体の奥まで収納します (①)。
 板金カバーを UPS 本体に向かって押さえ (②)、下にスライドさせて取り付けます (③)。
 手順 4 で外したねじ (2 個) を取り付け、板金カバーを固定します (④)。
 板金カバーでケーブルを挟まないように注意してください。



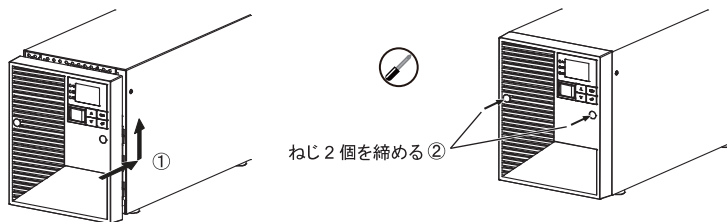
7. バッテリーコネクタを接続します。
 バッテリーコネクタを止まるまで差し込んでください。
 運転停止 (電源出力停止) 状態で交換作業を行っている場合、コネクタ接続時にパチッと音がすることがありますが、異常ではありません。



8. バッテリーコネクタを板金カバーに取り付けます。
 バッテリーコネクタのフックを板金カバーの固定穴の中央に合わせ (①)、フックを固定穴に通し (②)、コネクタを下げて固定穴にロックします (③)。
 取り付けが終わったら、フロントパネルを下します (④)。



9. フロントパネルを UPS 本体に取り付け (①)、フロントパネル中央部左右のねじ (4 個) を締めます (②)。



10. 交換作業が終わったら、自己診断テストを実施します。

テストが終了すると、自動的に運転状態に戻ります。

- 運転停止 (電源出力停止) 状態でバッテリー交換を行った場合
商用電源に接続し、UPS 本体の電源を入れてください。自動で自己診断テストが実施されます。
- 運転中 (電源出力中) にバッテリー交換を行った場合
LCD メニューの [2.コントロール]—[ジコシندانテストカイシ] で、手動で自己診断テストを実施してください。

11. カレンダーの設定をします。

商用電源の供給を止めてバッテリー交換を行った場合は、内蔵時計が未設定となります。LCD メニューの [3.セッテイ]—[ローカルセッテイ]—[カレンダーセッテイ] で内蔵時計の年月日、時刻を設定してください。

12. バッテリー寿命カウンタをリセットします。

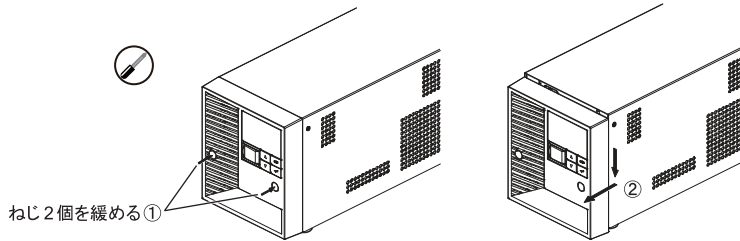
LCD メニューの [2.コントロール]—[バッテリージュミョウカウンタリセット] で、バッテリー寿命カウンタをリセットできます。

13. バッテリー交換日を記録します。

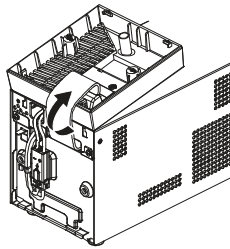
バッテリー交換日は、付属のバッテリー交換日ラベルに記入し、UPS 本体に貼り付けてください。LCD メニューの [3.セッテイ]—[バッテリーセッテイ]—[バッテリーコウカンビ] で、バッテリー交換日を入力して管理することもできます。

BN75T/BN50T の場合

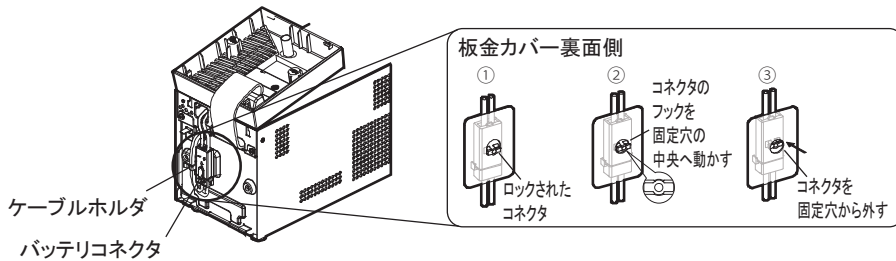
1. フロントパネル中央部左右のねじ（2個）を緩め（①）、フロントパネルを下げて手前に取り外します（②）。
ねじが空回りするまで緩めてください。
ねじはフロントパネルから外れない構造になっています。



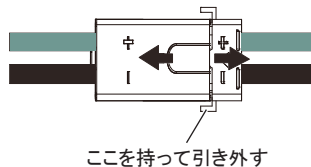
取り外したフロントパネルはUPS本体上部に置きます（③）。このとき、LCDのケーブルを引っ張ったりコネクタを外したりしないでください。



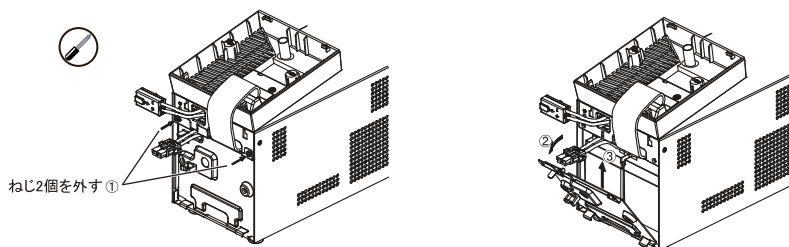
2. バッテリーコネクタを板金カバーから外します。
バッテリーコネクタは板金カバーの固定穴にロックされています（①）。コネクタを持ち上げてフックを固定穴の中央まで移動させ（②）、コネクタを後ろに引いて固定穴から取り外します（③）。



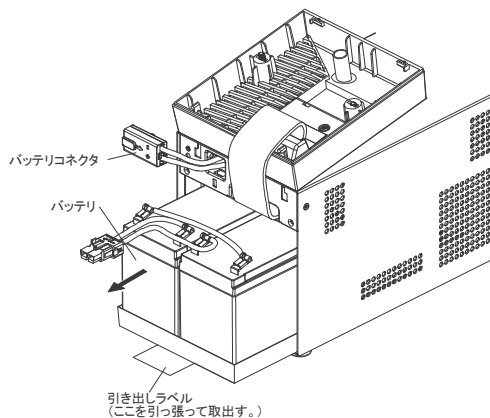
3. バッテリーコネクタを引き外します。



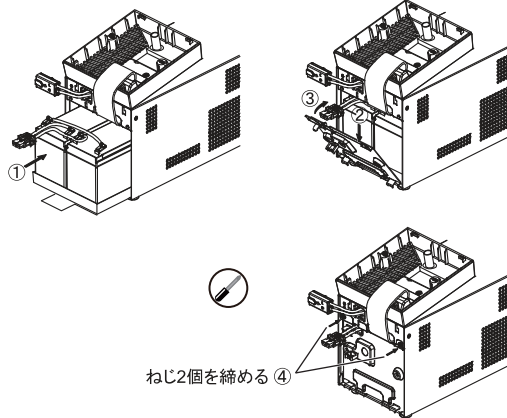
- 4.** 板金カバーを固定しているねじ（2 個）を外します（①）。
板金カバー（ねじ穴側）を手前に引きながら（②）、上に持ち上げて外します（③）。



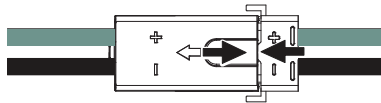
- 5.** 上段バッテリー下部の引き出しラベルを持ち、手前に引っ張って取り出します。
バッテリーのケーブルやコネクタを持たないでください。
バッテリー天面に貼ってある赤いテープが見えたら、あと 10cm でバッテリーが完全に取り出せます。バッテリーを両手でしっかりと持ち、落とさないよう注意してください。



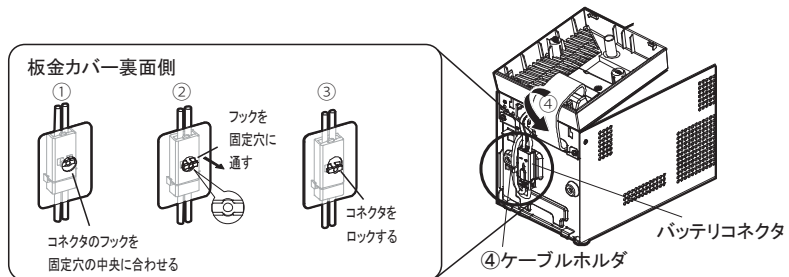
- 6.** 新しいバッテリーを挿入し、UPS 本体の奥まで収納します (①)。
 板金カバーを UPS 本体下側に差し込み (②)、UPS 本体側へ押さえて取り付けます (③)。
 手順 4 で外したねじ (2 個) を取り付け、板金カバーを固定します (④)。
 板金カバーでケーブルを挟まないように注意してください。



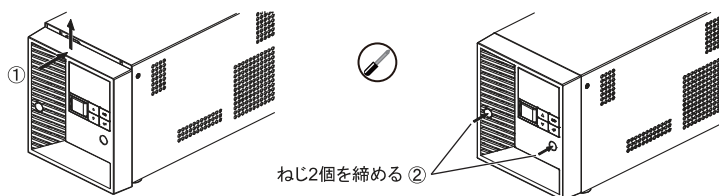
- 7.** バッテリーコネクタを接続します。
 バッテリーコネクタを止まるまで差し込んでください。
 運転停止 (電源出力停止) 状態で交換作業を行っている場合、コネクタ接続時にパチッと音がすることがありますが、異常ではありません。



- 8.** バッテリーコネクタを板金カバーに取り付けます。
 バッテリーコネクタのフックを板金カバーの固定穴の中央に合わせ (①)、フックを固定穴に通し (②)、コネクタを下げて固定穴にロックします (③)。
 取り付けが終わったら、フロントパネルを下します (④)。



9. フロントパネルを UPS 本体に取り付け (①)、フロントパネル中央部左右のねじ (4 個) を締めます (②)。



10. 交換作業が終わったら、自己診断テストを実施します。
テストが終了すると、自動的に運転状態に戻ります。
- 運転停止 (電源出力停止) 状態でバッテリー交換を行った場合
商用電源に接続し、UPS 本体の電源を入れてください。自動で自己診断テストが実施されます。
 - 運転中 (電源出力中) にバッテリー交換を行った場合
LCD メニューの [2.コントロール]—[ジコシندانテストカイス] で、手動で自己診断テストを実施してください。
11. カレンダーの設定をします。
商用電源の供給を止めてバッテリー交換を行った場合は、内蔵時計が未設定となります。LCD メニューの [3.セッテイ]—[ローカルセッテイ]—[カレンダーセッテイ] で内蔵時計の年月日、時刻を設定してください。
12. バッテリー寿命カウンタをリセットします。
LCD メニューの [2.コントロール]—[バッテリージュミョウカウンタリセット] で、バッテリー寿命カウンタをリセットできます。
13. バッテリー交換日を記録します。
バッテリー交換日は、付属のバッテリー交換日ラベルに記入し、UPS 本体に貼り付けてください。
LCD メニューの [3.セッテイ]—[バッテリーセッテイ]—[バッテリーコウカンピ] で、バッテリー交換日を入力して管理することもできます。

本取扱説明書に記載されている各会社名、各社製品名は各社の商標または登録商標です。
本取扱説明書の内容の一部または全部を無断で複製、転載することは禁止されております。
本取扱説明書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

© OMRON SOCIAL SOLUTIONS CO.,LTD. 2014

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社

K1L-D-14008F